

# NCAA と早稲田大学競技スポーツセンターの比較から見た 日本における大学競技スポーツ統括組織への期待

## The expectation for unification of sports association in Japan from comparing waseda univ. athletic center and NCAA

1K10C333 長谷川 雄大

主査 武藤泰明 先生

副査 作野誠一 先生

### 【目的】

日本の大学競技スポーツはいま一つ盛り上がり欠ける。一方アメリカではバスケットボール、アメリカンフットボールが強固な地位を築いており、大学スポーツがプロスポーツに引けを取らない人気を博しているという。日本には大学競技スポーツを統括する組織団体が存在しない。対してアメリカでは、大学競技スポーツ統括組織のひとつ、NCAA(National Collegiate Athletic Association)(以下 NCAA)の存在感が際立っている。

アメリカでは NCAA の発展と同時に大学競技スポーツも発展してきた。日本には大学競技スポーツ全体を盛り上げようという、全体最適を求める統括組織が存在しないことこそが、大学競技スポーツの発展につながっていないのではと考える。我が国における大学競技スポーツ発展に向け、新たな組織構築を目的とし、研究を進めていく。

### 【方法】

まずは日本の大学競技スポーツにおける現状、NCAA の現状について調査をする。日本の大学競技スポーツを統括する組織の必要性を説く意見や考察は散見することができた。しかしそこでは組織のあるべき姿、理想像が述べられているものの、実現に向けての具体性が欠けており、抽象的なものにとどまっていた。

大学競技スポーツ統括組織の創設実現に向けて各競技の学生連盟(以下学連)を統括する NCAA のような全国規模の組織を急速に築いてしまえば、強制力の持たない連絡団体に十分なりえてしまう。まずは規模にとらわれずに、現存する組織を発展させることが日本における大学競技スポーツ統括組織の創設につながると考えた。

そこで、核となる最初の組織を早稲田大学競技スポーツセンターに代表されるような、各大学に存在する体育会・体育局とすることを提案する。これら体育会・体育局は、規模は小さいものの、複数の競技スポーツを統括する横断的な組織体系であり、小規模な分強制力も発揮しやすいためである。学連同士の統合では容易ではない強みを効果的に活かすため。NCAA と早稲田大学競技スポーツセンターの比較を図り、新たな組織構築を目指す。

### 【結果】

NCAA が大学スポーツ界全体を統括している点でのメリットとして二点、「統一性」と「専任の職員の存在」という点が非常に大きい。統一性は他競技との間をつなぐ横の関係を作り出した時、単独競技では不可能な取り組みが行えるといった、様々な可能性につながる。もう一点が専任職員の存在であり、ボランティアの形ではなく、全員が同じベクトルに向かって進んでいける点は大きなメリットである。

競技スポーツセンターのように一般的に日本における体育会・体育局と呼ばれる組織は、大学競技スポーツを統括する組織でありながらも、最終的な判断は大学の決定に基づくものであり、独立した組織ではない。財務管理業務など基本的事業は NCAA とあまり変わらないが、アメリカでは大学競技スポーツをビジネスとしてとらえ、スポンサーの獲得、チケット販売やグッズ販売、放映権料などで収入を得ている。一方日本の体育会・体育局は大学の一組織であり、収益を上げる必要はない。故に大学競技スポーツをビジネスとして扱わず、兼任の職員も多く、日本はアメリカと比べアマチュアリズム色が強い。

### 【考察】

NCAA と競技スポーツセンターの違いは「資金の確保」「専任の職員不在」という点にあった。この問題を解決したとき日本の大学競技スポーツ統括組織創設につながるであろう。

解決策として、東京六大学といった複数の大学間での各大学の体育会・体育局を統括する組織を作ることが最適解であるという結論に至った。NCAA も設立当初は 13 の大学が集まる団体に過ぎず、意義の浸透や成果の現れに伴い規模は拡大していったものである。複数の大学と協力し専任の職員を雇い、各大学から独立した組織を創設することで、現在の日本における徹底したアマチュアリズムからの脱却を図る。そして大学から独立することで財源確保の幅を広げ、ビジネスを展開し様々な取り組みに対する可能性を広げる。大学競技スポーツの全体最適を求める組織が生まれた時、大学競技スポーツの人気や存在感というものも向上するであろう。